

第7回
ワールドゲームズ
報告書



特定非営利活動法人
日本ワールドゲームズ協会

第7回ワールドゲームズ報告書

目次

ワールドゲームズとは……………	(1~4)
日本選手競技結果……………	(5~8)
ドイツからのメッセージ……………	(9~10)
第7回大会に参加して……………	(11~24)
報道関係……………	(25)
新聞記事(日本)……………	(26~32)
新聞記事(ドイツ)……………	(33~37)
雑誌……………	(38~39)
第7回大会参加者……………	(40~44)
資料……………	(45)

国際親善スポーツと体育の国際大会 World Games 2005

4年に一度の国際総合大会「ワールドゲームズ」第7回大会
イツのデュイスブルク(Duisburg)市及び隣接3市で開催された。
7月14日に行われた開会式では、後援団体である国際オリンピ
自分の経験まで譲る人のことであり、全員がチャンピオン
が開催された。

開会式



実施され、102の国や地域から3,294名の競技者と1,206
手が参加した結果、公式競技で金4、銀8、銅6の計18個、また
人でライン川沿いの古くから鉄業産業で栄えた都市、オランダ、ベ
ルギーのデュッセルドルフで開催している。
スポーツ団体総連合(GASPI)・国際ワールドゲームズ協会(MGAI)の協

IOC ジャック・ロゲ会長

【写真提供 フォートキシモト】

国連制定〈スポーツと体育の国際年〉協賛
World Games 2005 Duisburg

特定非営利活動法人

日本ワールドゲームズ協会

4年に一度の国際総合競技大会「ワールドゲームズ」第7回大会は、2005年7月14日(木)から24日(日)までの11日間、ドイツのデュイスブルク(Duisburg)市及び隣接3市で開催された。

7月14日に行われた開会式では、後援団体である国際オリンピック委員会(IOC)のジャック・ロゲ会長から「チャンピオンとは自分の限界まで競う人のことであり、全員がチャンピオンになることができる」と挨拶があり、大会の様子は147の国と地域でテレビ放映された。

大会では、26の公式競技と6の公開競技で、合計177種目が実施され、102の国や地域から3,294名の競技者と1,206名の競技役員が参加した。日本からは23の競技に112名の選手が参加した結果、公式競技で金4、銀8、銅6の計18個、また公開競技では銅1のメダルを獲得した。

デュイスブルク市は、ドイツ中西部に位置しており人口約60万人でライン川沿いの古くから鉄鋼産業で栄えた都市。オランダ、ベルギーと国境を接したノルトライン・ヴェストファーレン州の州都デュッセルドルフに隣接している。

1989年にはユニバーシアード大会、1997年には国際スポーツ団体総連合(GAISF)・国際ワールドゲームズ協会(IWGA)の総会を開催している。

住民は移民も多く、その数140カ国に及ぶという国際色豊かな都市である。

ワールドゲームズとは

ワールドゲームズとは、国際スポーツ団体総連合(GAISF)加盟競技の中でオリンピック競技種目に採用されていない種目を集めて開催される、国際的トップアスリートによる総合競技大会。

国際ワールドゲームズ協会(IWGA)主催、国際オリンピック委員会(IOC)後援で4年に1度、夏のオリンピック開催の翌年に開かれる。この大会では、各競技の国際競技団体(IF)によって厳選された世界最高レベルの選手たちによって、約10日間熱戦が繰り広げられる。

第6回大会は2001年に秋田県で開催され、日本選手299名が参加し、公式競技で金9、銀6、銅10の計25個のメダルを獲得した。

2009年の第8回大会は、台湾の高雄市で開催予定。www.worldgames-iwga.org

ワールドゲームズの歴史

オリンピックは回を重ねるごとに規模が拡大し、新たな競技種目を加えることが、非常に困難な状況にある。そこで1970年代にオリンピック競技でない国際競技団体(IF)の中からオリンピックに匹敵する世界的な大会を開催すべきとの動きが出てきた。1980年5月に韓国ソウルに12の国際競技団体が集まり、「ワールドゲームズ協議会」(WGC)が設立。1981年には、アメリカのサンタクララで第1回大会が開催され、その後WGCは、国際ワールドゲームズ協会(IWGA)と改称し現在に至る。

	開催年	開催地	実施競技 (公式・公開)	参加選手数 (地域数)
第1回	1981	サンタクララ(アメリカ)	15(15・0)	1,265人(9カ国)
第2回	1985	ロンドン(イギリス)	21(21・0)	1,550人(57カ国)
第3回	1989	カールスルーエ(西ドイツ)	19(17・2)	1,965人(49カ国)
第4回	1993	ハーグ(オランダ)	26(22・4)	2,275人(49カ国)
第5回	1997	ラハティ(フィンランド)	29(24・5)	1,725人(71カ国)
第6回	2001	秋田(日本)	31(26・5)	2,193人(93カ国)
第7回	2005	デュイスブルク(ドイツ)	32(26・6)	3,294人(102カ国)
第8回	2009	高雄(台湾)	未定	未定

第7回ワールドゲームズ日本選手出場競技

《公式競技》

- ・フィールドアーチェリー (男子リカーブ／女子コンパウンド)
- ・ビリヤード (男子スリークッション／男女ポケット)
- ・ボディビルディング (男女階級別)
- ・ボウリング (男女ダブルス・シングルス)
- ・キャスティング (男女フライ・マルチプライヤー)
- ・ダンススポーツ (スタンダード／ラテン)
- ・フライングディスク (アルティメット)
- ・新体操 (女子種目別)
- ・トランポリン (シンクロナイズド)
- ・エアロビック (女子個人)
- ・パワーリフティング (男女階級別)
- ・ローラースケート (女子スピード)
- ・綱引 (女子 520kg)
- ・水上スキー (男子トーナメント)
- ・フィンスイミング (男女アプニア／女子サーフィス)
- ・空手道 (男女形・組手)
- ・相撲 (男女階級別)

- ・カヌー (女子カヌーポロ)
- ・パラシューティング (女子フリースタイル)
- ・ラグビー (7人制ラグビー)

《公開競技》

- ・合気道 (演武)
- ・ビーチハンドボール (女子)
- ・モーターサイクルスポーツ (インドアトライアル)

第7回ワールドゲームズ 日本選手競技結果

競技	種目	選手名	所属	結果	備考
ボディビル	男子80kg級	相川 浩一	東京ボディビル連盟	6位	
	女子52kg超級	西本 朱季	東京ボディビル連盟	9位	
カヌーポロ	女子	日本代表チーム		3位	
ダンススポーツ	ラテン	瀬古 薫希 瀬古 知愛	日本ダンススポーツ連盟	9位	
	スタンダード	石原 正幸 斉藤 愛	日本ダンススポーツ連盟	12位	
フィールドアーチェリー	男子リカーブ	二戸 博和	明星大学	9位	
	女子コンパウンド	井尻 律子	フクトクダイヤ	10位	
パラシューティング	フリースタイル	岡崎 葉子 AXEL ZOHMAN	フリー	3位	
パワーリフティング	男子軽量級	伊差川 浩之	パワースポーツ	失格	
	女子中量級	池谷 あや子	浜松東部トレーニングセンター	4位	
	女子軽量級	福島 友佳子	パワーハウス	4位	
トランポリン	男子シンクロ	人見 雅樹 上山 容弘	金沢学院北國クラブ 大阪体育大学	6位	
	女子シンクロ	半本 ひろみ 世戸 瑠子	金沢学院北國クラブ 金沢学院北國クラブ	3位	
綱引	女子520kg級	日本代表チーム	コベルコ科研	2位	

競技	種目	選手名	所属	結果	備考
相撲	男子重量級	下田 圭将	日本大学	1位	
	男子重量級	市原 孝行	日本大学	2位	
	女子重量級	築比地 里絵	間口運輸株	7位	
	男子軽量級	花田 裕也	日本大学	3位	
	女子軽量級	岩井 珠実	(株)アクトス	3位	
	女子軽量級	小濱 由紀	日本大学	6位	
	男子中量級	吉田 勝雄	日本大学	1位	
	男子中量級	日景 清悦	秋田県立比内養護学校 鷹巣分校	2位	
	女子中量級	石谷 里美	日本大学職員	2位	
	男子無差別級	市原 孝行	日本大学	1位	
	男子無差別級	下田 圭将	日本大学	2位	
	男子無差別級	日景 清悦	秋田県立比内養護学校 鷹巣分校	3位	
	男子無差別級	吉田 勝雄	日本大学	棄権	
	女子無差別級	石谷 里美	日本大学職員	敗者復活戦	
	女子無差別級	岩井 珠実	(株)アクトス	二回戦	
	女子無差別級	小濱 由紀	日本大学	二回戦	
	女子無差別級	築比地 里絵	間口運輸株	一回戦	

競技	種目	選手名	所属	結果	備考
スピードローラー スケート	1000m 女子	篠塚 奈知	POWERSLIDE JAPAN	21位	
	300m タイムトライアル女子	篠塚 奈知	POWERSLIDE JAPAN	15位	
	500m 女子	篠塚 奈知	POWERSLIDE JAPAN	14位	
	10000m 女子	篠塚 奈知	POWERSLIDE JAPAN	6位	
	3000m 女子	篠塚 奈知	POWERSLIDE JAPAN	10位	
	5000m 女子	篠塚 奈知	POWERSLIDE JAPAN	10位	
ボウリング(テンピン)	男子シングル	伊藤 文	(株)東北装美	18位	
	女子シングル	片井 文乃	静活(株)	5位	
	ミックスダブルス	伊藤 文 片井 文乃	(株)東北装美 静活(株)	7位	
新体操	ボール	村田 由香里	東京女子体育大学	14位	
	ロープ	村田 由香里	東京女子体育大学	13位	
	クラブ	村田 由香里	東京女子体育大学	11位	
	リボン	村田 由香里	東京女子体育大学	10位	
フィンスイミング	アブニア女子50m	坂本 弥生	WBF	6位	
	サフィス女子100m	坂本 弥生	WBF	予選	
	アブニア男子50m	酒井 秀彰	フィジカルアーキテクト	9位	
空手	男子組手 70kg 以下	永木 伸児	日本空手松涛会	予選	
	男子無差別	永木 伸児	日本空手松涛会	2位	
	女子組手 53kg 以下	荒賀 知子	京都産業大学	2位	

競技	種目	選手名	所属	結果	備考
空手	女子組手 60kg 以下	高橋 優子	日本空手協会	4位	
	女子形	若井 敦子	市川工務店	1位	3連覇
7人制ラグビー	7人制ラグビー	日本代表チーム		7位	
水上スキー	水上スキー	栗沢 祐行	静岡県水上スキー連盟	16位	
ビリヤード	スリクッション男子	梅田 竜二		一回戦	エントリー変更
	ポケットサインボール男子	星 勝志	(株)三木	一回戦	
	ポケットサインボール女子	浜西 由希子	ハマダ(株)	準々決勝	
キャスティング	男子フライ正確度	犬飼 岩魚	びわこキャスティングクラブ	2位	
		小田切 栄	中部キャスティングクラブ	17位	
	男子フライ片手投げ距離	犬飼 岩魚	びわこキャスティングクラブ	30位	
		小田切 栄	中部キャスティングクラブ	34位	
	男子スピニング正確度	犬飼 岩魚	びわこキャスティングクラブ	31位	
		小田切 栄	中部キャスティングクラブ	33位	
フライングディスク	アルティメット	日本代表チーム		4位	
エアロビック	女子シングル	伊藤 由里子	(株)JSMプロモーション	7位	
インドアトライアル	インドアトライアル・チーム戦	日本代表チーム		3位	
ビーチハンドボール	ビーチハンドボール女子	日本代表チーム		8位	

特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会

ドイツからのメッセージ

今般は当館からの急な申し出にもかかわらず、快くTシャツをご提供いただき、誠にありがとうございました。

昨日まで11日間にわたり開催されていた、第7回ワールドゲームズも幕を閉じました。期間中必ずしも天候に恵まれていたわけはありませんが、一部競技のテレビ放映、また新聞記事等での報道を通じて、選手達の熱い戦いは地元の人々にも充分伝わっていたものと思われます。日本関係では、相撲に対して特に関心が集まっていました。背景としては地元ドイツの女性選手の活躍があったことも理由に挙げられます。やはり競技の盛り上がりには開催国の選手の活躍が必須だと感じました。2012年ロンドンオリンピックにおける野球およびソフトボール除外というニュースもあり、各スポーツ競技の裾野を世界的に広げることの重要性を認識した次第です。

次回大会は2009年に台湾の高雄で開催されるとお聞きしています。貴財団では、次回大会のみならずスポーツを通じた様々な国際交流に今後とも御尽力されることと思われませんが、今後のドイツでのご活動について我々でご協力できることがあれば何なりと仰って下さい。

これからのますますのご活躍を祈念しております。

平成17年7月25日

在デュッセルドルフ日本国総領事館副領事

高 築 浩 一

ドイツからのメッセージ

7月14日には私の生まれ育ったデュイスブルクにて、世界各地の約百ヶ国から訪れた人々とともにワールドゲームズ開会式を満喫することが出来、この体験は私の生涯を通じて、決して忘れることの出来ないものとなるでしょう。

プラザやスタジアムの前では、日本から訪れた選手の方々を幾度となく見かけましたが、情熱と喜びとに満ちあふれたその表情は、印象的なモチーフのTシャツとともに、あの忘れがたい夕べの印象でもありました。

「共通したもの」から翼を得て躍動するという、人々と全世界のこの姿を見て、忘れがたい夕べとして、私もあのTシャツを身に着けてみたいという憧れが生まれました。

貴殿のご理解とご尽力とによって、あの忘れがたい夕べを象徴するこの印象的なモチーフを、私もようやく手にすることが出来、いま全世界の人々の共存の象徴としてこれを身に着け、大変誇りに思っております。

鉄と炭鉱の歴史に彩られたここルール地方には、かつて地下でまさに生死をともにした、炭鉱労働者特有の表現が今でも数多く残っています。そのひとつに独特な挨拶の言葉がありますが、貴殿ならびに日本からお越しいただいた選手の方々には、ここに深く感謝いたしますとともに、皆様のこれからのご幸運、ご健康ならびにご平和を祈る気持ちをこめて、Glück auf!

2005年7月

デュイスブルクの一市民
Günter Hamacher

第7回ワールドゲームズに参加して

日本ワールドゲームズ協会 副会長

日本ボディビル連盟 会長 玉利 齊

第7回ワールドゲームズ・デュイスブルク大会の開会式を見ながら感じたことは、創設時の理念が第1回以来24年の推移とともに完全に変貌したことを強く印象づけられた。

第2次大戦後、平和の祭典として再出発したオリンピックが東西冷戦構造の中で国威発揚の熾烈な場と化し、一方ではスポーツの大衆化によって商業主義の大きなうねりを浴びオリンピックが理想と現実の間で揺らいだ時、その矛盾を解決する方向性を標榜したのがワールドゲームズの理念だったと云える。

ノンオリンピック種目の国際大会として国別でなく市民レベルの参加を打ち出し、選手団の入場行進も競技種目別に行い、国歌吹奏、国旗掲揚を廃して、極端なナショナリズムを抑制し、既成の施設を利用することで経費の縮小化を図ったことは、当時は国際ワールドゲームズ協会が国際オリンピック委員会に対する対抗意識が底流にあったとは云え卓見であったと云えよう。

そこには、スポーツが国際政治や商業主義に対して主体性を失わずに人間の誇りと喜びを享受しようとする理想が反映されていた。だが、ベルリンの壁の崩壊後イデオロギーによる冷戦は解消したが文明の対立やナショナリズムの紛争は一向におさまらない。

そのような国際情勢の変化の中で、ワールドゲームズはオリンピックに限りなく近づき、その予備軍とも云うべき位置づけで繁栄してきたことは、現実の流れとして喜ぶべきことと割り切ってよいものなのだろうか。

ワールドゲームズ2005デュイスブルクに参加して

日本ワールドゲームズ協会執行理事

全日本ボウリング協会 会長 赤木 恭平

ワールドゲームズ2005は、7月14日から24日までの11日間ドイツ西部のデュイスブルク市をメインに近隣都市で32競技が実施された。

日程の都合で私は、総合開会式には出席できなかったが、このデュイスブルクにはかつて前回2001年秋田での第6回大会開催招致決定のためのIWGAの会議(その当時私はGAISFのメンバーであった)に出席したこともあり、懐かしい街であった。開催競技のうち、ボウリングはドイツを中心にヨーロッパで盛んな10ピンの原型でもある9ピンと10ピンの2競技が実施された。

《9ピンボウリング (ケーゲル)》

我が国では、全く競技として実施されていないが、ドイツでは街の中に数多くのボウリング場があり、普及度の高いスポーツである。7月15日から16日の2日間、デュイスブルク市クレフェルダースポーツホールに9ピンボウリング3種類のうちシエーレ競技の4レーンを持設して熱戦を展開した。観客席は2,500名の人々で埋まり、入場チケットは早くから完売。IOCロゲ会長も約1時間観戦した。

《10ピンボウリング (ケーゲル)》

我が国では、ボウリングといえば10ピンのことであるように、全世界107の国と地域が国際組織(WTBA 世界テンピンボウリング連盟)に加盟する大組織である。

会場は、デュイスブルク市の隣、ミュールハイム市にあるボウリング場で、7月17日から20日までの4日間の開催となった。

会場は連日満員の盛況であり、IWGAフローリック会長やIOCメンバー多数が観戦した。種目は男女のシングル戦とミックスダブルス戦の3種目で、24の国と地域から48名の選手が参加した。日本は女子片井選手がシングル戦2位でラウンドロビンに臨んだが、5位入賞であった(優勝は韓国)。男子伊藤選手は16位(優勝フィンランド)。ミックスダブルス戦はフランスが優勝し、7位にとどまった。

《その他》

大会期間中、フライングディスク、キャスティング、ファウストボール、7人制ラグビーの試合を視察。空手道は残念ながら入場券がなく応援することができなかった。

7月22日には、次回2009年の第8回ワールドゲームズ高雄大会組織委員会主催のレセプションに招待を受け、高雄市長で組織委員会 陳其邁会長、呉IOC委員、その他関係者と懇談した。レセプションにはJWGA 師岡理事とともに出席した。

大会としては、競技会場が広範囲で移動にはタクシー以外に不便であったが、運営は概ね良好であった。



開会式



成長し続けるオリンピックムーブメントとしてのワールドゲームズ

日本ワールドゲームズ協会国際担当執行理事

日本フライングディスク協会 副会長 師岡 文男

2001年の秋田ワールドゲームズ以後初めての大会となる第7回ワールドゲームズが、川渕キャプテンがJリーグ構想を思いついた優良スポーツクラブ都市デュイスブルクで開催されました。あきたWG記念会メンバーが寺田秋田県知事の親書を携えて参加した開会式にはIOCロゲ会長も出席し、秋田大会を上回る102カ国の国と地域から4,500名の選手・役員がオリンピックと同様に国別に国旗を掲げて入場行進しました。もともとオリンピックムーブメントの一環としてIOCが後援し、ドーピングテスト費用は全てIOCが支給しているワールドゲームズは、今や(1)非オリンピック種目の国際総合競技大会、(2)開催都市の既存施設で開催できる種目のみでの開催、(3)選手村を作らず、競技別に宿舍を割り当て選手の国際交流を促進、(4)参加選手は国ではなく各競技の国際組織が世界最高レベルの選手を選び、その選手が所属する各国の競技協会に派遣を要請する、ことと知名度が必ずしもまだ高くないことを除けば、ほとんどオリンピックと同様な大会になりつつあります。大会規模ももはや飽和状態にあり、国際ワールドゲームズ協会(IWGA)は2007年まで新しいスポーツの入会申請を受け付けず、現在の加盟団体についても見直しを行う予定であるところまでオリンピックに似てきています。空手、スカッシュ、ローラースケートはオリンピック競技候補になり、今回もIOC委員が多く参加してスポーツ評価委員が各競技会場を回りましたが、オリンピックより選手と観客の距離が近く、より市民のスポーツ参加を促進していくワールドゲームズの良いところは失わずにユニークな国際大会として成長し続けて欲しいものです。

IOCは会長名で、各国のオリンピック委員会にWG競技への支援を要請していますが、日本では日本ワールドゲームズ協会(JWGA)と笹川スポーツ財団(SSF)のみが参加選手への支援を行っているのが現状です。今回、NHKのスタッフの横領事件に端を発する視聴料不払い者急増による予算削減でNHKでの放送が不可能となった際も、JWGAが加盟団体から募金を募り、TBS系の衛星放送BS-iの協力を得て2時間の大会総集編を全国放送することができました。その後もCS放送のTBSチャンネルが同じ番組を

4 回再放送し、インターネットのブロードバンド www.showtime.jp/sports/worldgames/ ではいまだに「大人気」のラベル付番組として視聴可能になっています。今回のこの JWGA による全国放送の実現を評価した IWGA が今まで公には認めていなかった国別の WG 協会の必要性を検討し始めたことは特筆に値します。今後、多種多様なスポーツを普及させ、全ての人々がスポーツを楽しめる環境作りを促進していくオリンピックムーブメントとしてのワールドゲームズを JOC、JWGA、SSF、日本体育協会、日本レクリエーション協会が協力し合って育てていくことが求められています。北京オリンピックの翌年の 2009 年 7 月 16 日～26 日、台湾の高雄市で開催される第 8 回大会に向けて幅広い支援体制を作っていくことが今後重要だといえるでしょう。



アメリカンフットボール

デュイスブルク紀行

日本ワールドゲームズ協会理事

全日本空手道連盟 副会長 蓮見 圭一

赤レンガの古い工場跡、入口から油の匂い漂うような質素だが、天井が高いせいかなぜか落ちつく会場、悪い雰囲気ではない。しかし照明は暗い、このままでは試合は無理だ。

その暗い中に浮かび上がった白い妖精が、マットよりさらに白く、空間を切り裂くように激しく、そして凜として時を刻む究極の那覇の形“壹百零八歩(スパーリクパイ)”で力と美を描く。

世界の形の女王、メキシコ世界大会で4度目の世界を制した若井敦子選手とフランスのエースとの決勝戦、相手M・スクドゥラクレル選手の“五十四歩小”も良かった。ヨーロッパだろう

しかし、違いを見せた。観客に一瞬拍手を忘れさせたほどの感動の金メダルだった。

組手の女王荒賀知子選手的女子組手ー53kg級決勝、H・アリー選手を相手に上段の連打で相手を圧倒するが、あまりの敏速絶妙な技が相手の顔面を接触したかに見える、反則を取られ反撃の得意の中段前蹴りが決まらず準優勝の銀に終わった。

男子組手無差別級、エントリー資格者の出場が少なくー70kg級世界選手権者の資格で出場した日本のエース永木伸児選手、世界の大男相手に予選リーグ全勝での決勝戦に臨む。相手は無差別級王者のロシアA・グエルノフ選手、20cmの身長差も少しもハンディと感しない敏捷な技の連発、相手の上段蹴りを反転してかわしての裏回し上段蹴り、“神業だ”決まって3本で勝利。これも審判に見えない。時間切れ判定負けの惜しい銀メダル。

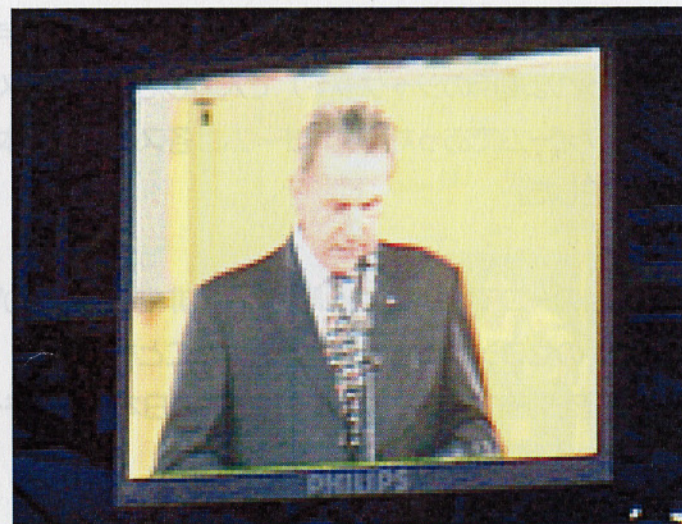
激戦が終わって、優勝のA・グエルノフ選手は“永木は素晴らしい選手”と驚嘆させた。

銀とはいえ、荒賀選手も永木選手も場内満員のドイツの観客に、伝統の技と心を十分に伝える使命は果たした試合だった。

出場4選手(大会出場資格、前年度世界選手権入賞者6名のうち、2名辞退)のうち、金1個、銀2個の成果は、香川政夫監督の見事な采配の功績であろう。

最後に大会の運営について、事故やトラブルはなかったが、前回の秋田大会の運営の素晴らしさを改めて認識した。

日本選手には、特に暖かい声援と拍手をいただいたデュイスブルクの皆様の、永遠なる繁栄を祈りながら帰路についた。



IOC ジャック・ロゲ会長

2005年ドイツ・ワールドゲームズ報告

日本ワールドゲームズ協会理事

国際パワーリフティング協会 理事 吉田 進

今回のワールドゲームズには、私はパワーリフティングのIF 役員、ボディビルディングのNF 役員として参加した。ボディビルディング、パワーリフティング共に日程の前半に開催されたので、開会式に参加する機会を得た。ワールドゲームズには1989年のドイツ・カールスルーエ大会から毎回参加しているが、一番盛大で立派だった秋田大会の開会式をしのぐ、大規模で良く計画された開会式だった。約3万人入るスタジアムが100%埋まり、大歓声の中を選手とともに入場行進するのは、一種の高揚感を伴った感激があった。ここで気がついたのは、ロシアが有名な宇宙飛行士を団長に、100名以上のチーム員が全員おそろいのチームウェア（おしゃれな夏用のジャケット）で入場したこと。アメリカも100名近くの大チームだったがカジュアルではあるが全員おそろいのユニフォームであった。日本チームは各スポーツ団体ごとのドイツ入りとなり、ユニフォームもなく、少人数だけの行進で、寂しい思いをした。

ボディビルは人気種目の一つで、決勝は会場が満員で非常な盛り上がりを見せた。ただし、ボディビルの会場ではIDが「付き添い用」だったために選手のセコンドとして控え室に行くことも出来ず、ドーピングテストに指名された日本選手に付き添うために、厚いセキュリティーの壁を突破するのに非常に苦労した。日本ワールドゲームズ協会のメンバーがワールドゲームズに参加するときは「どこにでもいけるID」がどうしても必要だと実感した。

パワーリフティングは厳しい選抜の結果、名実ともに世界のトップレベル選手が勢揃いし、世界選手権をしのぐ素晴らしいレベルの大会だった。IFのIDで入場したために、何の苦労もなく、選手のセコンド、取材、手伝い活動が出来た。日本選手は二人が4位。

惜しくもメダルを逃した。今後、各スポーツで、メダルの取れる選手の育成が非常に重要な課題になると思う。全体的に良く統制の取れたすばらしい大会運営だったと感じたが、唯一不自由を感じた点は各スポーツの会場があまりにも遠く離れていたこと。ボディビルとパワーリフティングの会場はタクシーで40分、6000円ぐらいの距離。あわよくばボランティアの運転するオフィシャルカーを見つけることが出来れば自由に動くことが出来たが、なぜか車はあまっているようだが、運転手は完全に不足していた。



ボディビル



パワーリフティング

ワールドゲームズに参加して

日本ワールドゲームズ協会理事

日本水中スポーツ連盟 専務理事 吉澤 俊治

2005年7月18日から24日まで、ワールドゲームズデュイスブルク大会の後半に日本フィンスイミングチームを引率し、前回の秋田大会のイメージがある選手2名、コーチ1名、そして代表として私を入れた4名。途中でオーストリアの学会から野村武男会長が合流し、5名の選手団で参加した。

前年11月の上海世界選手権大会で、世界のレベル勢力図がモノフィンの進化に伴い大きく変わり、従来の女子中国、男子ロシアという世界のトップレベルの構図が壊れ、女子中国・ロシア、男子イタリア・ロシアという新勢力図が描かれた。この勢力図の中を縫うように日本選手は、坂本弥生選手が女子50m アプニアで6位、酒井秀彰選手で9位という成績を獲得した。前回の秋田大会では、開催国特権で8名が参加し、1名のみベスト10入り、それに比べ、開催国特別枠がなく2選手が代表として選ばれベスト10入りしたということは、日本としては大きな成長であり、特に男子が入ったことを冷静に喜べる結果であった。次回、台湾の高雄大会を目標に表彰台を目指しステップ・バイ・ステップで日本フィンスイミングを牽引していきたいと強く誓える大会となった。

途中、他の競技を見学に行く機会があり、モーターサイクルスポーツのトライアルを観戦に行き、世界の中で日本が大活躍の銅メダルを獲得するのを目のあたりに観戦することができた。このイメージを次回我々も繋げたいと感じた。

今大会に参加するにあたり、助成を頂いた笹川スポーツ財団に選手団を代表し、心より厚くお礼を申し上げます。

輝ける瞬間、歴史の証人

日本ワールドゲームズ協会総務担当執行理事
笹川スポーツ財団 常務理事 渡邊一利

JWGA総会（6月20日）で理事に選任された小生は、日本人選手の応援団として、また、テレビ放映用の映像カメラマンとして7月13日にデュイスブルグに降り立った。

締切後の登録手続きに無理があったのか、到着時にIDパスが発行されず、悪戦苦闘の末、2日かかりでの取得となった。漸く手にしたのは「VIP」パスと「PRESS」パス。これを最大限に活用し、複数の会場で最高の場面に立会う。まさに千載一遇。日本人選手のメダル獲得の瞬間をカメラに撮る「歴史の証人」となったのだ。

先ずは、大会3日目の7月17日に訪れた。「パラシューティング・フリースタイル」の岡崎葉子、Axel Zohman ペアが第3位。秋田大会に続く2大会連続のメダル獲得である。今大会は男女が同じ枠で競技するという前代未聞の大会であったため、この銅メダルの価値は筆舌に尽くし難い。

そして、「トランポリン・女子シンクロ」の半本ひろみ、世戸瑤子ペア。決勝ラウンド、並居る強豪を抑えて第3位。PRESSゾーンでカメラを構える小生の目から頬に伝わる暖かい涙。特に表彰式では涙が溢れ、真面にファインダーからメダル姿の彼女たちを見ることができなかった。

国際舞台で経験豊富な彼女たちに共通することは、緊張の中にも威風堂々とした演技とインタビューでの毅然たる対応である。さすがトップアスリートだと感心させられた。

翌日の7月18日には、カヌーポロ女子チーム。国際大会で初めてメダルを獲得する場面に遭遇した。前日の余韻が未だ残る身体に、

再度感動が涙となって現れた。3位決定戦は予選で惜敗したフランスチーム。延長戦でも勝敗がつかず、フリースロー合戦に。両チーム5人がフリースローを行い、結果日本チームが1対0で勝利。前日と違い、苦しんだ末の銅メダル。試合後、渡邊監督と選手が抱擁と涙の合唱、そこにカメラマンの小生が混じり大合唱となった。

2桁のメダルを獲得した相撲、残念ながらメダルに届かなかった新体操やボディビル、その他複数の競技を観戦取材した。選手が見せる「喜び」や「悔し涙」、私はワールドゲームズを通じて数え切れない「感動」を覚え、スポーツの素晴らしさと人間の無限の可能性を改めて教えられた気がする。

この「感動」を一人でも多くの方が味わえるよう、JWGAの理事として、スポーツの普及とワールドゲームズの発展のために邁進したい。

これこそ、歴史の証人に課せられた責務である。



カヌーポロ

ワールドゲームズ(デュイスブルク)に参加して

日本ワールドゲームズ協会 理事

日本ビリヤード協会 専務理事 西尾 学

2005年7月、ドイツ西部の都市デュッセルドルフから北へ25km、デュイスブルクの地に到着。会場の中心付近は世界各国の国旗やテーマカラーを配したカラフルなポスターがあふれ、ボランティアがいっぱい。ベンツを中心としたオフィシャルカー(秋田大会のときは日産車)がところ狭しと走り回っている。やあ、ワールドゲームズがはじまっているのだな、とチームジャパンの面々の興奮も高まる中、グラデーション本部で選手登録手続きを行い、ビリヤード会場のあるボトロップへ向け再出発(デュイスブルクから北へ約20km)。ホテルへチェックイン。

会場は、シティーホールに隣接する広々したコンベンションセンター。この至れり尽せりの施設は、宿泊ホテルから歩いて10分。シティーホール内の会議室で世界連盟の総会も開催することができた。

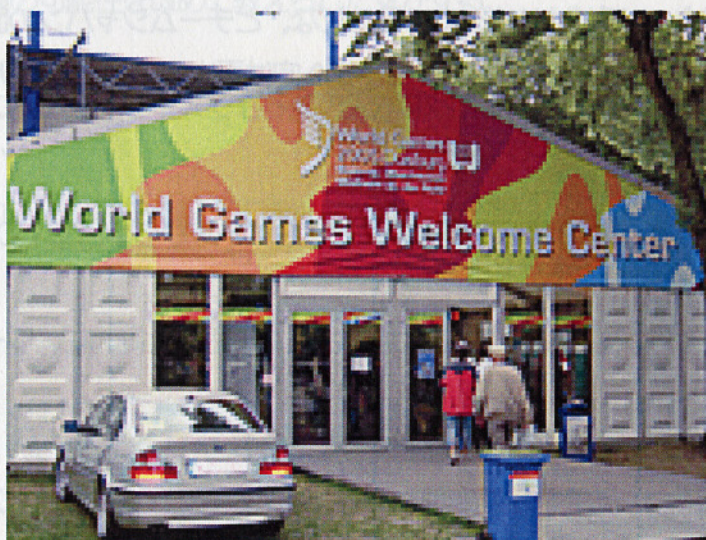
この充実した環境の中で、世界五大陸の代表国が30カ国も参加したことは、誠に意義のある大会であったと思うと同時に、ワールドゲームズもとうとうここまで来たかと思無量の思いであった。

大会の成績については、残念ながらメダルには手が届かなかったが、女子ナインボールの浜西由希子選手がオーストリアのジャスミン・オーシャンとの対戦で先行し、あと一セットを残したところで、唯一のミスから大逆転され優勝を逃してしまった事が、かえすがえすも残念でたまらない。

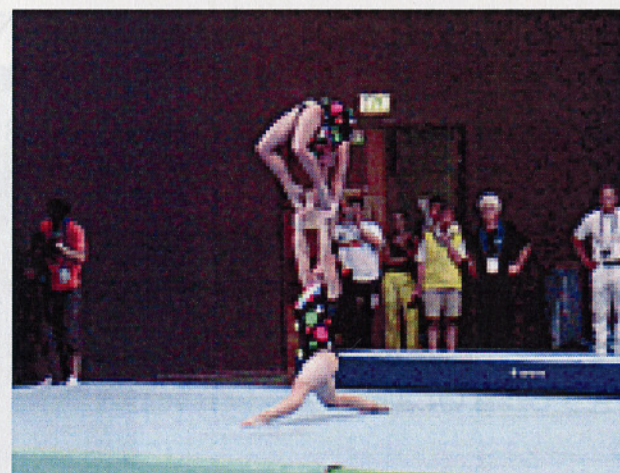
大会が終了して思うに、2001年の秋田大会よりその規模は数段と大きくなり、ラハティ(1997年)の頃に比べると夢のような

進歩を遂げたと思われる。ボランティアにも多数の人たちが参加され、献身的な活動をされていた。秋田の時よりも年輩の方々が多数参加されていたのが、その中でも印象的であった。

あくまでも私見であるが、ワールドゲームズがこれだけの規模に拡大した以上、従来のNF→IF→開催国組織委員会という図式でなく、オリンピックのように国単位ですべての手続きを統括する方が整理がつきやすいと考える。



ワールドゲームズセンター



スポーツアクロ体操

報道関係

テレビ放映

7月27日	TBSテレビ	「みのもんた朝ズバッ」
7月28日	TBSテレビ	「みのもんた朝ズバッ」
8月 6日	BS-i	「ワールドゲームズ2005」
8月13日	CS放送TBSチャンネル	「ワールドゲームズ2005」

再放送 8月31日、9月17日、9月18日

インターネットブロードバンド

<http://www.showtime.jp/sports/worldgames/>

http://www.tbs.co.jp/bbbox/di2_sports.html (スポーツ)

インターネット

sanspo.com 7月15日 ニュース速報

雑誌

Sportiva 10月号

ワールドゲームズ
日本選手団は100人

五輪以外の競技を一嘗に集めた4年に一度の国際総合大会「ワールドゲームズ」(14、24日、ドイツ・デュイスブルク)の日本選手団の概要が4日、日本ワールドゲームズ協会から発表された。前回2001年は秋田で開催された大会で、今回が第7回となる。

今大会では、27公式競技、6公開競技が実施され、フリースタイルやカヌー、ボロなどが新たに加わった。

日本勢は計23競技に約100人が参加予定。空手道の形で3連覇のかかる若井敦子、パラシューティングのフリースタイル女子で秋田大会銀メダルの岡崎葉子が出場する。また、新体操(個人・種目別)には村田由香里、エアロビクスには伊藤由里子という第一人者が参戦する。

前回の秋田大会には、日本選手299人が参加し、公式競技で金9、銀6、銅10の計25個のメダルを獲得した。

五輪採用をめざし 空手再びアピール

きょうからワールドゲームズ

空手道連盟副会長は「WGは今年で最後」と、五輪への自信を関係者に言っていたという。だが、土壇場で採用は見送られた。形で3連覇のかかる若井敦子ら、日本から出場する4選手すべてに優勝する力がある。「強さを示して国内向けにアピールしたい。整然とした運営で国際的にもアピールしたい」

2005.7.14.朝日新聞夕刊

Wゲームズ開幕

【デュイスブルク(ドイツ)共同】ボウリング、綱引き、空手など非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズが14日(日本時間15日早朝)、当地で開会式を行い開幕した。

競技は15日から24日までの10日間。日本を含む100カ国・地域から約3000人が参加し、32競技で争われる。

2005.7.15.毎日新聞夕刊

WGは夏季五輪翌年に開かれる。前回01年は秋田で行われ、今回が7回目。IOCの後援を受けており、五輪入りを目指す競技団体にとって格好のアピールの場となっている。

世界空手連盟の理事も務める薄見圭一・全日本

2005.7.15.朝日新聞夕刊

☆ワールドゲームズが開幕。ボウリング、綱引き、空手など非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズが14日(日本時間15日早朝)、デュイスブルク(ドイツ)で開会式を行い開幕した。

新聞

★綱引き女子で銀メダル 日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第3日は17日、ドイツのデュイスブルクで行われ、綱引きの女子520*₀で日本(コベルト科研)が銀メダル。また、トランポリンの女子シンクロナイズドで半本ひろみ、世戸瑠子組(金沢学院北国ク)が銅メダル。【共同】

2005.7.19.毎日新聞朝刊

◎日本勢が3メダル獲得 日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第3日は17日、ドイツのデュイスブルクで行われ、綱引きの女子520*₀で日本(コベルト科研)が銀メダルを獲得。トランポリンの女子シンクロナイズドで半本ひろみ、世戸瑠子組(金沢学院北国ク)が銅メダル。パラシューティングのフリースタイルでは岡崎葉子(フリー)が外国人カメランと組み3位に入った。(共同)

2005.7.19.産経新聞

カヌーポロ女子
日本、銅メダル
ワールドゲームズ
非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第4日は18

日、独デュイスブルクで行われ、カヌーポロ女子で日本が銅メダルを獲得した。日本は3位決定戦でフランスに3-2で勝った。決勝はドイツが英国に勝ち優勝。(共同)

2005.7.20.朝日新聞朝刊

◆日本、カヌーポロ女子で銅 日本ワールドゲームズ協会に入った連絡による

と、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第4日は18日、ドイツのデュイスブルクで行われ、カヌーポロ女子で日本が銅メダルを獲得した。日本は準決勝でドイツに3-5で敗れたが、3位決定戦でフランスに3-2で勝った。決勝はドイツが英国に勝ち優勝。(共同)

2005.7.20.東京新聞朝刊

◆日本勢がメダル獲得 日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第3日は17日、ドイツのデュイスブルクで行われ、綱引きの女子520*₀で日本(コベルト科研)が銀メダルを獲得した。トランポリンの女子シンクロナイズドで半本ひろみ、世戸瑠子組(金沢学院北国ク)が銅メダル。(共同)

2005.7.19.東京新聞朝刊

★カヌーポロ女子で日本が銅 日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第4日は18日、ドイツのデュイスブルクで行われ、カヌーポロ女子で日本が銅メダルを獲得した。日本は準決勝でドイツに3-5で敗れたが、3位決定戦でフランスに3-2で勝った。決勝はドイツが英国に勝ち優勝した。【共同】

2005.7.20.毎日新聞朝刊

◎カヌーポロ女子で日本が銅 非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第4日は18日、ドイツのデュイスブルクで行われ、カヌーポロ女子で日本が銅メダルを獲得した。日本は準決勝でドイツに3-5で敗れたが、3位決定戦でフランスに3-2で勝った。決勝はドイツが英国に勝ち優勝。(共同)

2005.7.20.産経新聞

★相撲で金メダル2個
日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第5日は19日、ドイツのデュイスブルクで行われ、日本は相撲の活躍が目立ち、男子重量級、中量級で金メダルに輝くなど、男女合わせて計7個のメダルを獲得した。

決勝はともに日本人同士の間戦となり、重量級は下田圭将(日大)が市原孝行(日大)に勝ち、中量級は吉田勝雄(日大)が日景清悦(秋田・比内養護学校鷹巣分校職)を降した。【共同】

2005.7.21.毎日新聞朝刊

☆相撲で金メダル2個
日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第5日は19日、ドイツのデュイスブルクで行われ、日本は相撲の活躍が目立ち、男子重量級、中量級で金メダルに輝くなど、男女合わせて計7個のメダルを獲得した。

決勝はともに日本人同士の間戦となり、重量級は下田圭将(日大)が市原孝行(日大)に勝ち、中量級は吉田勝雄(日大)が日景清悦(秋田・比内養護学校鷹巣分校職)を下した。

女子中量級では石谷里美(日大職)が銀メダル。軽量級は男子の花田裕也(日大)、女子の岩井珠実(アクトス)がともに銅メダルを獲得した。【共同】

2005.7.21.朝日新聞朝刊

●相撲で金2個
日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第5日は19日、ドイツのデュイスブルクで行われ、日本は相撲の活躍が目立ち、男子重量級、中量級で金メダルに輝くなど、男女合わせて計7個のメダルを獲得した。【共同】

2005.7.21.産経新聞

相撲無差別級
日本が金銀銅
ワールドゲームズ
非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第6日は20日、ドイツのデュイスブルクで行われ、日本は相撲の男子無差別級で金、銀、銅メダルを独占した。日本人同士の決勝で、市原孝行(日大)が前日の男子重量級で優勝した下田圭将(日大)を破った。3位は日景清悦(秋田・比内養護学校鷹巣分校職)だった。【共同】

2005.7.22.朝日新聞朝刊

◆相撲の無差別級メダル
独占
日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第6日は20日、ドイツのデュイスブルクで行われ、日本は相撲の男子無差別級で金、銀、銅メダルを独占した。決勝で、市原孝行(日大)が下田圭将(日大)を破った。3位は日景清悦(秋田・比内養護学校鷹巣分校職)だった。【共同】

2005.7.22.東京新聞朝刊

男子無差別級で
日本メダル独占
Wゲームズ・相撲
日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、第7回ワールドゲームズ第6日は20日、ドイツのデュイスブルクで行われ、日本は相撲の男子無差別級で金、銀、銅メダルを独占。決勝で市原孝行(日大)が下田圭将(日大)を破った。3位は日景清悦(秋田・比内養護学校鷹巣分校職)だった。【共同】

2005.7.22.毎日新聞朝刊

●相撲の無差別級メダル
独占
日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ第6日は20日、ドイツのデュイスブルクで行われ、日本は相撲の男子無差別級で金、銀、銅メダルを独占した。

日本人同士の決勝で、市原孝行(日大)が下田圭将(日大)を破った。3位は日景清悦(秋田・比内養護学校鷹巣分校職)だった。【共同】

2005.7.22.産経新聞

新聞

☆日本メダルなし 日本
ワールドゲームズ協会に入
った連絡によると、非五輪
競技・種目の国際総合大
会、第7回ワールドゲーム
ズ第8日は22日、ドイツの
デュイスブルクで行われ、
この日も日本勢はメダルな
しに終わった。フィンスイ
ミングでは女子100リザ
ーフィスの坂本弥生(WB
F)と、男子50リザニア
の酒井秀彰(フィジカルア
ーキテクト)はともに予選
落ちした。(共同)

2005.7.24.朝日新聞朝刊

☆日本はメダルなし 日
本ワールドゲームズ協会に
入った連絡によると、非五
輪競技・種目の国際総合大
会、第7回ワールドゲーム
ズ第7日は21日、ドイツの
デュイスブルクで行われ、
この日の日本はメダル獲得
はならなかった。
フィンスイミングの女子
50リザニアで坂本弥生
(WBF)は6位。種目別
で競う新体操では村田由香
里(東女体大研究生)はり
ボンが10位、クラブが11位
だった。(共同)

2005.7.23.朝日新聞朝刊

◆日本はメダルなし 日
本ワールドゲームズ協会に
入った連絡によると、非五
輪競技・種目の国際総合大
会、第7回ワールドゲーム
ズ第7日は21日、ドイツの
デュイスブルクで行われ、
この日の日本はメダル獲得
はならなかった。
フィンスイミングの女子
50リザニアで坂本弥生
(WBF)は6位。種目別
で競う新体操では村田由香
里(東女体大研究生)はり
ボンが10位、クラブが11位
だった。(共同)

2005.7.23.東京新聞朝刊

★日本がメダル18個を獲
得 日本ワールドゲームズ
協会に入った連絡による

と、非五輪競技・種目の国
際総合大会、第7回ワール
ドゲームズ最終日は24日、
ドイツのデュイスブルクで
行われ、空手の女子形で若
井敦子(岐阜県連盟)が3
連覇を果たした。
キャスティングの男子フ
ライ正確度で犬飼岩魚(び
わこキャスティングク)が
2位に入った。日本のメダ
ル獲得数は公式競技で金
4、銀8、銅6の計18個、
公開競技で銅1個だった。
次回の09年大会は台湾の

2005.7.26.毎日新聞朝刊

高雄で行われる。【共同】

◆空手の荒賀が銀メダル
日本ワールドゲームズ協
会に入った連絡によると、
非五輪競技・種目の国際総
合大会、第7回ワールドゲ
ームズ第9日は23日、ドイ
ツのデュイスブルクで行わ
れ、空手の女子組手53*級
で荒賀知子(京産大)が銀
メダルを獲得した。7人制
ラグビーの日本は7位。公
開競技のモーターサイクル
スポーツ、インドアトライ
アルで日本は3位。(共同)

2005.7.25.東京新聞朝刊

◎空手で銀 日本ワ

ールドゲームズ協会に入っ
た連絡によると、非五輪
競技・種目の国際総合大
会、第7回ワールドゲー
ムズ第9日は23日、ドイ
ツのデュイスブルクで行
われ、空手の女子組手53
*級で荒賀知子(京産
大)が銀メダルを獲得し
た。7人制ラグビーの日

本は7位。(共同)

2005.7.25.産経新聞

空手の女子形 若井が3連覇

ワールドゲームズ

日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ最終日は24日、ドイツのデュイスブルクで行われ、空手の女子形で若井敦子（岐阜県連盟）が3連覇を果たした。キャスティングの男子フライ正確度で犬飼岩魚（びわこキャスティングク）が2位に入った。

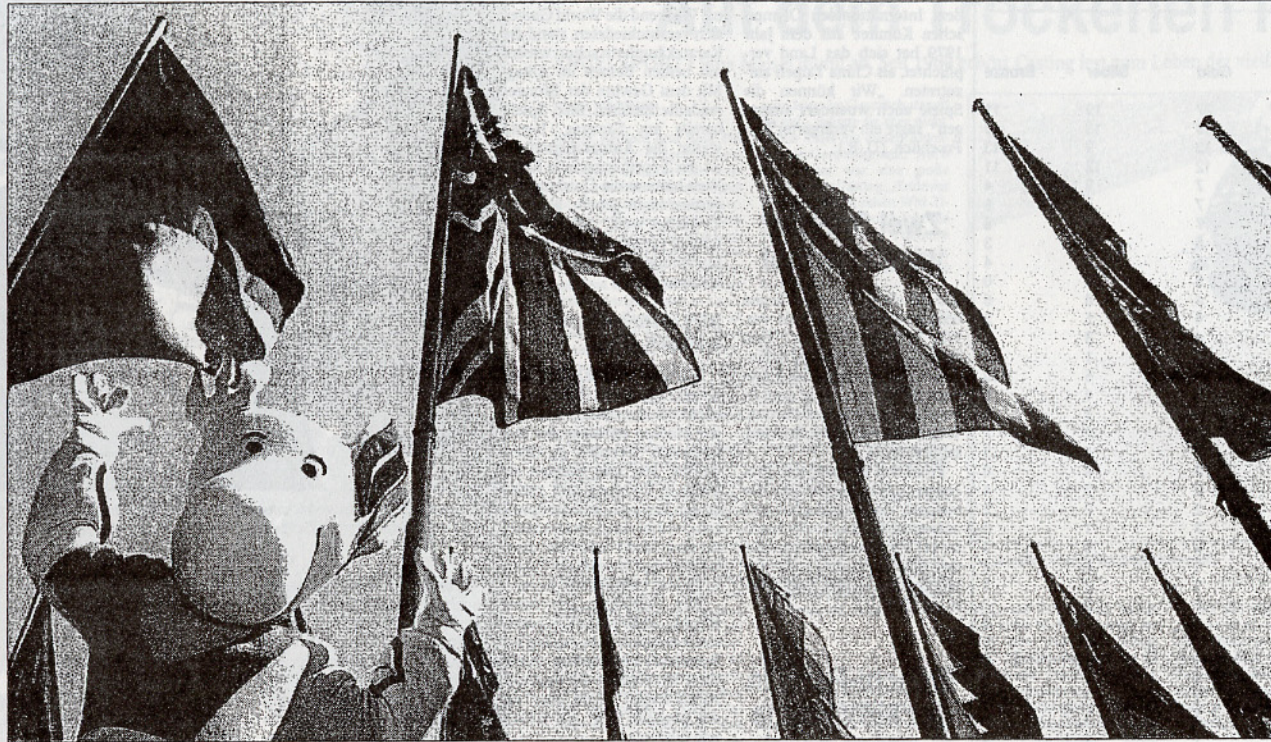
日本のメダル獲得数は公式競技で金4、銀8、銅6の計18個、公開競技で銅1個だった。次回の09年大会は台湾の高雄で行われる。
（共同）

2005.7.26.毎日新聞朝刊

●空手女子の若井が3連覇 日本ワールドゲームズ協会に入った連絡によると、非五輪競技・種目の国際総合大会、第7回ワールドゲームズ最終日は24日、ドイツのデュイスブルクで行われ、空手の女子形で若井敦子（岐阜県連盟）が3連覇を果たした。キャスティングの男子フライ正確度で犬飼岩魚（びわこキャスティングク）が2位に入った。
日本のメダル獲得数は公式競技で金4、銀8、銅6の計18個、公開競技で銅1個だった。次回の2009年大会は台湾の高雄で行われる。
（共同）

2005.7.26.産経新聞

Willkommen in Duisburg!



Heute geht's los: Maskottchen Allwin freut sich auf den Startschuss zu den World Games in Duisburg. Die Eröffnungsfeier zu den Weltspielen der Nicht-Olympischen Sportarten, zu denen rund 3500 Sportler erwartet werden, beginnt um 20.15 Uhr (live im WDR) in der Duisburger MSV-Arena. (Foto: Monika Kirsch)

■ SIEHE SONDER-SEITE „WORLD GAMES“

Fröhlich droht Kaohsiung

Ron Fröhlich, Präsident der Internationalen World Games Association, droht der Stadt Kaohsiung, die World Games 2009 wegzunehmen. Der Hintergrund: Kaohsiungs Bürgermeister Chi-Mai Chen hatte am Samstag bei einer Pressekonferenz in der MSV-Arena sein Land wiederholt Taiwan genannt. Laut eines Vertrages mit dem Internationalen Olympischen Komitee aus dem Jahr 1979 hat sich das Land verpflichtet, als China Taipei aufzutreten. „Wir können die Spiele auch woanders austragen“, sagte ein verärgertes Ron Fröhlich. (D. R.)

WIEVIEL GOLD?

Platz	Gold	Silber	Bronze
1. Russland	27	19	20
2. Deutschland	19	18	11
3. Italien	13	9	13
4. Frankreich	12	12	11
5. Australien	7	9	4
6. USA	7	7	9
7. Ukraine	7	6	8
8. Spanien	6	6	3
9. Niederlande	5	8	4
10. Dänemark	5	1	0
11. Japan	4	8	6
12. China	4	5	3
13. Österreich	4	3	1
14. Schweiz	4	1	3
15. England	3	5	10
16. Kolumbien	3	4	4
17. Polen	3	2	6
18. Schweden	3	2	1
19. Belgien	2	4	5
20. Neuseeland	2	4	0
21. Kanada	2	2	4
22. China Taipeh	2	2	2
23. Korea	2	1	3
24. Ägypten	2	0	3
25. Tschechien	1	3	4
26. Rumänien	1	2	1
Slowakei	1	2	1
28. Griechenland	1	2	0
29. Argentinien	1	1	3
30. Brasilien	1	1	2
Venezuela	1	1	2
Koratrien	1	1	2
33. Luxemburg	1	1	1
34. Malaysia	1	1	0
Katar	1	1	0
36. Norwegen	1	0	2
Türkei	1	0	2
38. Bosnien-Herzegowina	1	0	1
Finnland	1	0	1
40. Bulgarien	1	0	0
Fidschi	1	0	0
Ungarn	1	0	0
Litauen	1	0	0
Marokko	1	0	0
Serbien und Montenegro	1	0	0
46. Slowenien	0	3	1
47. Südafrika	0	2	3

Zwei Sportler waren gedopt

Bei den World Games liegen bisher zwei Doping-Fälle vor. Wie IWGA-Präsident Ron Fröhlich gestern mitteilte, fanden die Kontrolleure bei insgesamt 250 Kontrollen in zwei A-Proben verbotene Substanzen. Welche Sportler betroffen sind, sagte er nicht.

Fröhlich zum weiteren Prozedere: „Wir besprechen das erst mit den Verbänden und müssen abwarten, ob die Sportler auf B-Proben bestehen.“ Bei den Spielen in Akita vor vier Jahren hatte es fünf Dopingfälle gegeben.

Fidschi-Party in der MSV-Arena

Waisale Serevi, der Ausnahme-Spieler von den Fidschi-Inseln, hat beim Rugby-Turnier den Schlusspunkt gesetzt. Im Finale gegen Südafrika erzielte der 37-Jährige kurz vor Schluss die fünf Punkte zum 31:26-Sieg. Es folgten bewegende Szenen. Die Fidschis bildeten einen Kreis, sangen religiöse Lieder. Rund 100 Landsleute mit Wohnsitz in Europa feierten auf der Tribüne das Team. (D. R.)

Tolle Spiele, aber Olympia bleibt ein Traum

ABSCHLUSS / Karatekämpferin Kora Knühmann zieht ihr persönliches Fazit aus den vergangenen elf Tagen. Für die Bronze-Gewinnerin sind die World Games heute schon Vergangenheit.

MANUEL REISS

Kora Knühmann war gestern Abend nicht in der MSV-Arena. Während die World Games sich verabschiedeten, stand die Karatekämpferin schon wieder mit beiden Beinen im Alltag. Mit dem Gewinn der Bronzemedaille endeten ihre Spiele bereits am Samstag. Heute wartet die Aufnahmeprüfung an der Sporthochschule Köln. Weit hätte es die Duisburgerin gestern nicht gehabt, aber die 21-Jährige weiß: „Ich will vernünftig vorbereitet sein auf diese Prüfung, da geht's um mein weiteres Leben.“

Als Lokalmatadorin natürlich dabei

Wer auch immer in den letzten elf Tagen nach Duisburg geblickt hat, ihr Gesicht war eine der Marken im Meer der Namenlosen. Geboren in Oberhausen, lebt und trainiert sie heute in Duisburg und zählte zu den Favoriten in ihrer Sportart. „Ich bin eine Lokalmatadorin und fand's toll, dass diese bunten und vielseitigen Spiele in meiner Heimatstadt waren.“

Ihre Teilnahme war daher Pflicht – aktiv natürlich, passiv wenn möglich. Von Anfang an. Bei der Eröffnungsfeier durfte Kora Knühmann die deutsche Fahne tragen. „Eine Ehre“ sei das gewesen und „ein Hauch von Olympia.“

Body-Building stand ein paar Tage später zum Zuschauen auf dem Programm: „Das hat mich schon immer interessiert, aber wann kommt man sonst dazu.“ Auch ein Besuch auf der Plaza war in diesen Tagen ein Muss.

Mitte vergangener Woche rückte ihr eigener Wettkampf in den Mittelpunkt. „Ausgerechnet am letzten Wochenende“ war Karate dran. Die



Strahlende Dritte: Karatekämpferin Kora Knühmann freute sich über Bronze zum Abschluss der World Games, obwohl sie gern Gold geholt hätte. (Foto: Monika Kirsch)

World Games ließen sich aber auch über Zeitung und Fernsehen miterleben, für eine Sportlerin aus der Region aber vor allem über Freude und Familie „mitfühlen“.

„Die Stimmung bekommt man da doch mit und die Leute standen echt dahinter.“ Vermittelte Begeisterung? Kora Knühmann ist überzeugt: „Duisburg ist eine Sportstadt und hat sich auch so gezeigt.“

Und seinen Gästen ein Bild jenseits der Klischees geboten. „Die Sportstätten waren überall verteilt. Viele Menschen haben allein dadurch gesehen, dass Duisburg nicht mehr nur aus Hochöfen besteht.“

Die Kraftzentrale im Landschaftspark-Nord sei ein schö-

nes Beispiel. Gold blieb ihr hier versagt. Ihr Ziel habe sie trotzdem erreicht. „Ich wollte aufs Podium. Schließlich war meine Klasse eine der wenigen, in der die komplette Elite da war.“ Eine Herausforderung für Knühmann, aber auch ein Zeichen für den Stellenwert der Spiele.

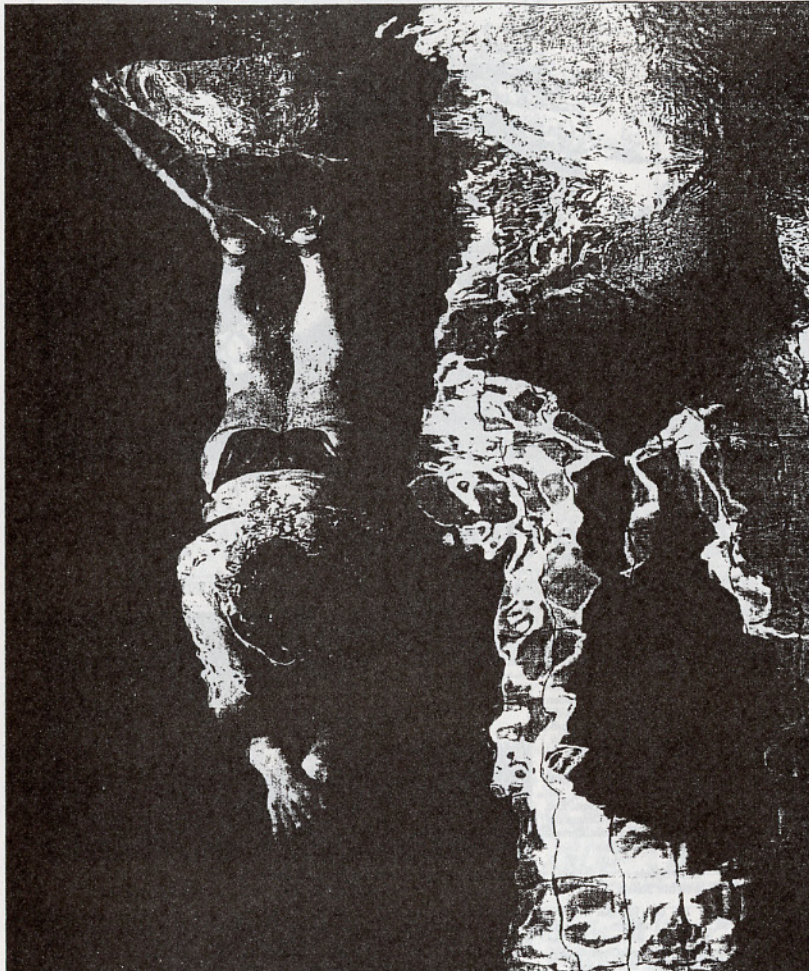
Olympia bleibt ein Traum

„Viele Länder können es sich hier nicht leisten, viele Sportler zu schicken.“ Bei Olympia wäre das sicher anders, aber da ist die Karatekämpferin ohnehin skeptisch. „Die World Games waren eine echte Chance für Randsportarten wie Karate“, meint Knüh-

mann, aber: „Olympia bleibt ein Traum.“

Bei den World Games 2009 ist Karate wieder dabei. Kora Knühmann nicht. Das weiß die 21-Jährige schon heute: „In meiner Heimatstadt war's etwas Besonderes, aber in vier Jahren werde ich sicher beruflich andere Verpflichtungen haben.“

Bronze wird daher ihre einzige World-Games-Medaille bleiben. Mit einem Ehrenplatz. Auch dieses Edelmetall platziert sie in der Glasvitrine des Clubhauses, neben den Medaillen von EM und DM – aber hinter dem Pokal ihres WM-Titels. „Der bleibt vorne. Diese WM ist und bleibt mein wichtigstes Erlebnis als Sportlerin.“



SCHNELL WIE EIN FISCH sind die Flossenschwimmer unterwegs. Mit der Monolosse erzielen die Athleten mitunter bessere Zeiten als die besten Schwimmer der Welt. In Duisburg schwammen vor allem die Russen am ersten Tag der Konkurrenz davon. Die Wettkämpfe gehen heute im Schwimmstadion zu Ende. (Foto: iiro)

Auf dem Trockenen fischen

ANGELSPORT / Jana Maisel räumt ab. Seit 1969 gehört Casting fest zum Leben der vielfachen Weltmeisterin.

SONJA VOLKMANN

Robert Redford und Brad Pitt sind für ihre Fliegenfischerei mit einem Oscar belohnt worden. „Aus der Mitte entspringt ein Fluss“ hat weltweit Aber-tausende in den Kinossesseln begeistert. Jana Maisel hat auch regelmäßig Fliegen an ihrem Angelhaken. Die 42-Jährige aus Gera zieht damit allerdings keinen einzigen Fisch an Land. Wie sollte sie auch? Maisel ist Casterin und wirft ihre Rute vornehmlich auf dem Trockenen aus. Auf Sportplätzen, bei Wind und Wetter. Sogar mit enormem Erfolg. Das allerdings nimmt die Öffentlichkeit kaum wahr.

Viele belächeln Casting. Wenn jemand meint, einen originellen Witz über exotische Disziplinen zu machen, müssen in der Regel die speziellen Sportangler dran glauben. Casting wird dabei aber allzu oft mit dem Fliegenfischen gleich gesetzt. Ein Fehler. Hier wird schließlich nicht um Frischfisch gekämpft, sondern um Punkte. Und von denen hat Jana Maisel im Laufe ihrer Karriere etliche eingefangen. 41 Welt- und 30 Europameistertitel hat sie bisher errungen. Seit den vergangenen World Games hängen zwei von drei Goldmedaillen bei Maisels in der Wohnung. Das erste WM-Gold 1990 in Bordeaux war zugleich das letzte für ein DDR-Team.

„Ich bin da so reingewachsen“, sagt die Grundschulleh-

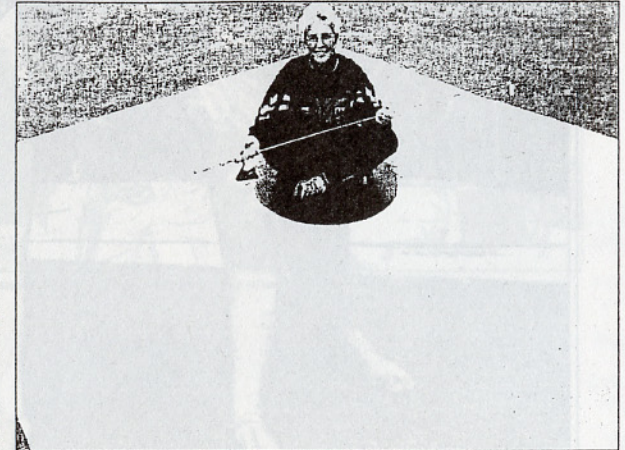
rerin leise. Im Gespräch stapelt sie tief – müsste sie aber nicht. „Mein Vater hat diesen Angelsport in Gera aufgebaut.“ Auch die Mutter war eine große Nummer im Casting. „Ende der 50er hat sie den ersten WM-Titel nach Gera geholt“, lobt die Tochter ihre erste Trainerin stolz und hält eine Angel hoch, deren Lack an diversen Stellen bereits ab ist.

„Die hat meine Mutter schon geworfen“, erklärt Maisel. 40 Jahre alt ist das gute Stück mit dem leicht ramponierten Korngriff. Beim Präzisionswurf mit Gewicht spielt das Alter der Rute aber keine bedeutende Rolle. In fünf Wurftechniken müssen die Sportler das weiße tropfenförmige Gewicht an der Schnur auf die grüne Zielscheibe befördern.

Wenn es richtig super läuft, sollte es leise plopp machen und der Tropfen flockig auf dem schwarzen Zielteller auf-titschen. Diese der drei World-Games-Disziplinen mag Jana Maisel besonders gern. Zumindest lieber als „Fliege weit“.

Eigene Edition

Wenn der Wind zu stark aus der falschen Richtung bläst, haben die Caster ein Problem. Zwar wiegt die Schnur, die beim Weitwurf beschleunigt wird und letztlich das Ergebnis ausmacht, 34 Gramm. Aber bei Windstärke zwölf ist die Gefahr größer, dass sich die Nach-schnur verheddert oder die



Ziel getroffen. (Foto: Friedhelm Geinowski)

Fliege auf der Tribüne landet und nicht 50 Meter weiter im Feld. Hier und beim „Fliege Ziel“ (Entfernung acht bis 15 Meter) tritt Maisel mit High-tech-Equipment an.

Mittlerweile gibt es sogar eine eigene Angelrutenserie, die „Jana-Maisel-Edition“. Doch darüber hinaus hält sich der all-gemeine Rummel in Grenzen. Als Jugendliche habe sie auf einer stationären Anlage trainiert, erinnert sich die Angelmeisterin. Kurz nach der Wen-

de sei die abgebaut worden. „Heute ist es viel schwieriger, einen Platz zu bekommen“, ärgert sich Jana Maisel. Auch in den neuen Bundesländern, in denen die Angelverbände damals größer waren als die vom Fußball, sagt die Meisterin.

Forellen aus dem Fluss

Im Gegensatz zu früher trainiert die ruhige Frau, die in Duisburg zu den Favoriten

zählt, nur noch an zwei bis drei Tagen der Woche. Würfe. Technik. Und Ausdauer. „Athletik ist nicht unwichtig“, klärt Maisel auf. Auf dem Trainingsplan stehen – was kaum einer weiß – Kugelstoßen und Speerwerfen. Gerade für die Weitwürfe sei das wichtig.

Was macht eine mehrfache Siegerin, wenn sie nicht unterrichtet oder auf dem Trockenen fischt? Angeln. Entweder Meeresangeln in Norwegen. Oder Forellenfischen am Fluss.



Die Kraftzentrale: So heißt die Halle im Landschaftspark Nord, in der die Sumo-Ringer antreten. Passt aber auch auf Nicole Hehemann. (Foto: Friedhelm Geinowski)

Tut gar nicht weh

SUMO-RINGEN / Nicole Hehemann übers Essen, Diäten, schwere Brocken und die Angst, dass was ins Auge geht.

RALF BIRKHAN

Einen Kaffee? „Jetzt nicht!“ Ein Wasser? Es ist heiß in der Mittagssonne. „Auch nicht!“ Nicole Hehemann (28) aus Hagen am Teutoburger Wald ist Mannschafts-Weltmeisterin im Sumo-Ringen, aber essen darf sie nicht. Trinken schon gar nicht. Schlägt alles aufs Gewicht, und beim Wiegen muss sie am Abend unter 80 Kilo sein, dem Limit ihrer Gewichtsklasse. Heute um 14 Uhr geht es für sie im Landschafts-

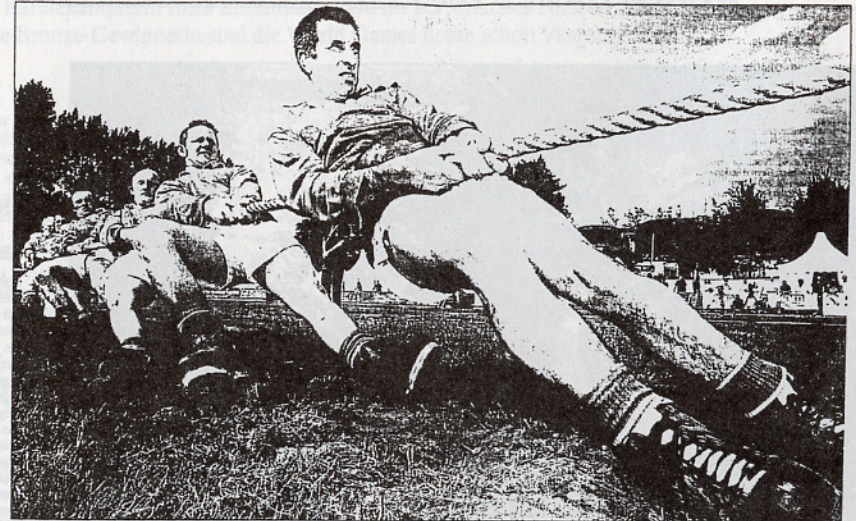
hat es gepasst. 79,8 Kilo, aber ich bin vor dem Wiegen noch mal durch den Wald gerannt. Außerdem habe ich dafür extra dicke Klamotten angezogen, dann schwitze ich schneller und muss nicht soviel rennen. **NRZ: Und seit Tagen essen Sie gar nichts?** Hehemann: Nicht nichts, aber wenig. Ich bin deshalb auch nach der Eröffnungsfeier der World Games am Donnerstag wieder nach Hause gefahren, sind ja nur 150 Kilometer.

wichtsklassen. Ich war früher auch im Schwergewicht, also in der Klasse über 90 Kilo. Aber das hatte keinen Zweck, denn dort bekommt man es mit Gegnerinnen bis zu 150 Kilo oder mehr zu tun. Die sind zwar oft nur dick, aber wenn sie nicht nur dick sind, sondern auch noch halbwegs fit, dann schieben sie dich einfach weg. Also bin ich eine Gewichtsklasse runtergegangen. **NRZ: Denkt man demnach beim Thema Sumo in Kir-**

in einem Bett liegt, kommen doch auch schnell 190 Kilo zusammen, warum also Betten verstärken? **Hehemann: Am Anfang haben sie gesagt: Du spinnst. Mittlerweile haben sich alle dran gewöhnt. Ich habe ja auch als Kind schon mit Judo angefangen, Kampfsport ist also ganz normal in meinem Leben.**

Hehemann: Klar, aber nach meinem Wettkampf bleibe ich noch ein paar Tage in Duisburg. Zwar zahlt der Verband nur für vier Tage das Hotel, aber danach kann ich bei einer Freundin wohnen. Ich will mir bei den Spielen das Beach-Handball-Turnier ansehen. **NRZ: Wieviele Gegnerinnen müssen Sie in Duisburg für eine Medaille aus dem Wag räumen?** **Hehemann: In meiner Klasse treten acht Kämpferinnen an, aber wie der Modus ist,**

Freistich
Tolle Spiele, aber
Olympia bleibt ein Traum
2000.02.04.09.15.00



Die harten Jungs von der Grünen Insel sind am Zug. Die Familie Kehoe ist seit Jahrzehnten im Geschäft: als Farmer und als Tauzieher. Die Iren waren bei allen World Games am Start. 1955 gewannen sie Gold, diesmal mussten sie sich mit der Bronzemedaille begnügen. (Fotos: Monika Kirsch)

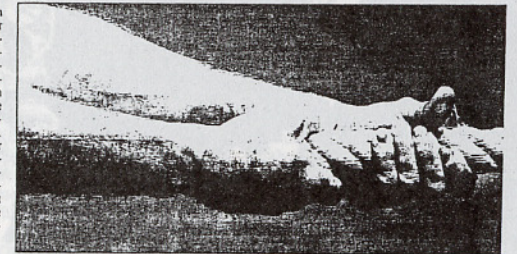
Die Urgesteine

TAUZHIEHEN / Die Farmer-Familie aus Irland war bei allen sieben World Games dabei. In Duisburg gab's Bronze

DIRK RETZLAFF

Die Jungs von Bill Kehoe müssen schon morgen wieder dran ziehen. Auf ihrer Farm in Wexford, im Südosten Irlands, früh aufstehen, Knochenarbeit, abends in den Pub, am nächsten Morgen wieder früh raus. Ein Familienbetrieb. Brüder und Cousins packen an. Zwischendurch ziehen sie am Tau. „Wir gehören seit Jahrzehnten zu den besten Tauzieh-Teams der Welt“, sagt Kehoe, der Trainer des Nationalteams. Bei den World Games in Duisburg gab's in der 680-Kilogramm-Klasse mit Sieger Niederlande und Vize Schweiz zwei bessere Mannschaften. „Kleingkeiten entscheiden, nächstes Mal läuft's vielleicht besser“, sagt Kehoe. Nächstes Mal – das ist wörtlich zu nehmen, denn die Farmer-Familie aus Irland war auch bei allen sechs vorherigen World Games dabei. 1985 am erfolgreichsten: in London

Wettkämpfe sahen, war es ein Volksfest. Nicht mehr, aber auch nicht weniger. Sonnenschein, kantige Sportler, professionelle Moderation – es waren unterhaltsame Nachmittage. Die Tribüne war an beiden Tagen voll besetzt und die Wettkämpfe damit nach offizieller Lesart ausverkauft. Trotzdem wäre noch Platz für viele Siebtplatz-Besucher gewesen. So standen – auch zahlungswillige – Besucher zunächst hinter dem Zaun. Erst später öffneten die Ordner die Tore und ließen alle Interessenten kostenlos rein.



Kraft, Schmerzen, Ausdauer – beim Tauziehen geht's zur Sache.

Gute Spiele, weicher Rasen

Für den Rummel der Zuschauer arbeiten Tauzieher hart. Der Wochenablauf bei Familie Kehoe: Dienstag und donnerstags Zieh-Training, an den anderen Tagen Konditions- und Krafttraining. In Ir-

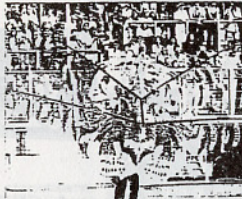
weichen Stellenwert die Duisburger Spiele haben. Bill Kehoe gibt sich als höflicher Gast. „Die besten Spiele aller Zeiten“, sagt er. Aber nicht der beste Boden. Zu weich sei der Rasen, bemerkte das World-Games-Ur-

wenden.“ Für die Besucher wieder Stimmung auf. An Familie Kehoe lag es diesmal aber nicht. Ein Match in Duisburg dauerte am Wochenende im Schnitt acht Minuten. I Farm-Jungs von der grünen Insel können wesentlich läng

新聞

José Curas Botschaft an die Sportler

ERÖFFNUNGSFEIER / Der argentinische Startenor begeisterte zum Auftakt der World Games das Publikum in der MSV-Arena. 22 000 Zuschauer waren an der Wedau dabei



Feuerakt von Yumet: Ein gewagter Tüftelei aus Papier, nicht durfte bei der Eröffnung der World Games fehlen



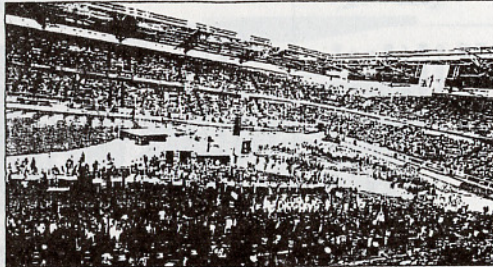
Ein Feuerakt: Und das geht schon für die Pyro-Technik als auch für die ausgeprochenen Dussburger Phantasmagie

Vielleicht werden die Spiele ja so locker wie José Cura gestern Abend die Treppe in der MSV-Arena herunterstolzierte und zu sagen: "Es ist zum Jubiläum groß. Vielleicht werden die World Games auch so beindruckend wie der Auftritt des Startenors. Der Argentinier begeisterte mit Puccini. Und zuletzt werde ich sagen: Ein ganzes Motto für die Spiele. Cura stand auf der Bühne und sprach sich schmeicheleig mit dem Publikum durch. Die Besucher der World Games-Eröffnungsfeier jubelten ihm zu. Jonathan Darlington, Dirigent der Dussburger Philharmoniker, spielte dem Publikum - keine selbstverständliche Geste.

Schlechte Karten für Schwarzländer

Wesentlich schlechter war Bundesinnenminister Otto Schily, der um 21:15 Uhr in Vertretung von Bundeskanzler Gerhard Schröder die wichtigsten Worte des Abends sprach. Schily, der die Feier auf der Eröffnungsbühne neben IOC-Präsident Jacques Rogge verfolgte, sagte: Ich erkläre die 7. World Games für eröffnet. Nun kann's losgehen. Schily sprach nicht vor vielen Rängen. Die Holztribüne der World-Games-Geschäftshalle, deren Feuer Lämpchen sich nicht. Die Hitze, wie Lämpchen es am Vorabend formuliert hatte, war nicht voll. 22 000 Zuschauer schauten in der MSV-Arena zu, nur 1000 Menschen hätten noch ins Stadion gepasst. Schlechte Karten für Schwarzländer, die sich wehren, wenn sie noch zehn Euro für ein Ticket kassierten. Ein Missgeschick.

Auch wenn die ungeliebte Minderheit, die Kick- und Brink wegen sexuellicher Probleme zeitweise nur schwer zu verstehen war, ließen die Besucher den Start der World Games. Sie sahen ein Programm, das den "Wahnsinn" Dussburg zum Ausdruck brachte. Eines der wesentlichsten mit Karte und Stuhl bekannt, zum ein Stunden für moderne Technologie. Dussburger Oberbürgermeister Adolf Sauerland wünschte sich Solchliche Spiele



Eine beeindruckende Kulisse in der MSV-Arena. 22 000 Zuschauer feierten gestern Abend mit den Sportlern die Eröffnung der 7. World Games. Alle Beteiligten hätten sich in neuen Stadion nicht.



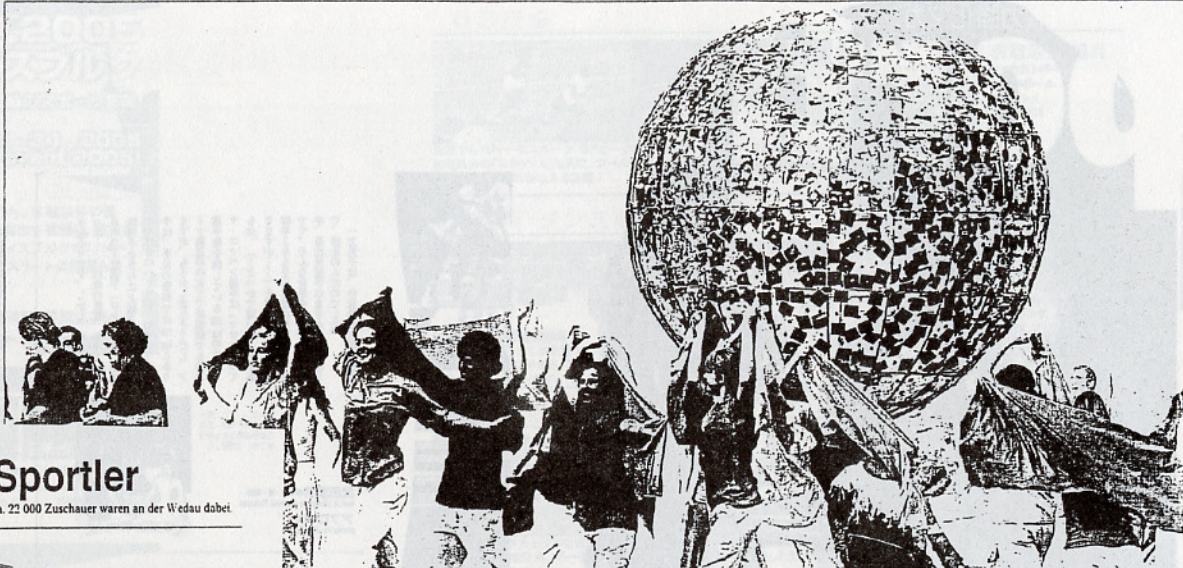
Bewegung auf den Rängen, die Zuschauer hatten viel Spaß



Der richtige Durchblick: Wenn man muss, man hat



Bei Stimmung: Das Dussburger Publikum ging während des Abends munter mit



des Wortes: Zum Beginn der Feier trugen die Mitwirkenden eine stilisierte Weltkugel in die Arena. Fotos: Monika Kirsch (4) und Friedhelm Geinowski (3).

Einer hat gefehlt

Es war ein schöner Abend, der ganzen in Gussburg. Das Ende eines herrlichen Sommerfestes. Und über 20 000 Zuschauer, ein stolzer Erwartungsträger eines bunten World-Games-Auftakts, so garlich nie ausgenutzt. Enttäuscht wird niemand nach Hause gegangen sein. Es lag in der Natur der Dinge, dass die Vorgeschichte der Dussburger World Games mehr und mehr in "Wagssachen" geriet, es sei, hat sie Spiele suchten. Wer

World Games 2005 Duisburg
Bottrop, Oberhausen
Mülheim an der Ruhr

ワールドゲームズ2005 デュイスブルグ

世界にない競技を目的に集結した最高峰のスポーツ祭典!

July 14 - 24, 2005
The biggest sports event 2005!

Opening message

ワールドゲームズは、国際スポーツ団体総連合(GAISF)に加盟している競技団体のうち、五輪以外の競技・種目を集結させた世界最高峰のスポーツ祭典。1980年の発足以来、メディアへの露出を確保し、競技を世界的に普及させるために4年に一度開催されてきました。2005年大会はドイツ・デュイスブルグで7/14~24に行われ、世界のトップアスリートが国や地域を代表して競い合いました。日本人アスリートの活躍も目立った今大会の貴重な映像をご覧ください!

「ワールドゲームズ解説編」を **500K**で視聴する [会員無料](#) [詳細はこちら](#)

Index

1 開会式&日本人選手の活躍編	2 トレンド・スポーツ編	3 筋力競技編	4 球技編	5 芸術・ダンス競技編
6 標的競技編	7 公開競技編	ワールドゲームズでは、国際ワールドゲームズ協会(WGIA)に認定された公式競技32種目と公開競技6種目で競われます。世界には素晴らしいスポーツが沢山あるということを見出し、楽しむことができるのがワールドゲームズの醍醐味です。		

Contents

1 開会式&日本人選手の活躍編

2005年7月14日に、第1回ワールドゲームズがドイツ・デュイスブルグで開催。日本人選手は、公式競技で金4、銀3、銅6の計16個、公開競技で銅1個を獲得するなどの活躍を見せ、大会を盛り上げました。

[会員無料](#) [500Kで視聴する](#) [詳細はこちら](#)

2 トレンド・スポーツ編

より早く、より高く、より速くへ、水中、陸上、はたまた空中、とさまざまな場所でさまざまな競技が行われる「トレンド・スポーツ」は、観るだけで心をおどらせます。観るほどの興奮を覚えます。

収録競技・種目

- ・ローラーホッケー
- ・フライングディスク
- ・フィンスイミング
- ・水上スキー
- ・フリークライミング
- ・スピードローラスケート
- ・オリエンテーリング
- ・ライフセービング
- ・パラシューティング

[会員無料](#) [500Kで視聴する](#) [詳細はこちら](#)

3 筋力競技編

両体の最高到達点を目指して、純粋な肉体の強さを競い合う「筋力競技」。選手それぞれが鍛え上げた身体を披露するボディビルディングや、チームの力を合わせて競う綱引きなどは要注目です。

収録競技・種目

- ・ボディビルディング
- ・パワーリフティング
- ・綱引き

[会員無料](#) [500Kで視聴する](#) [詳細はこちら](#)

4 球技編

世界でもメジャーなスポーツ「ラグビー」は7人制を導入。スポーツジムなどでもお馴染みの「スカッシュ」も実は、ワールドゲームズ認定種目です。カヌー・ボロは日本女子代表が3位に入る活躍!

収録競技・種目

- ・フットボール
- ・コフボール
- ・スカッシュ
- ・カヌーボロ

[会員無料](#) [500Kで視聴する](#) [詳細はこちら](#)

5 芸術・ダンス競技編

華やかさと芸術、そして美を競うのが「芸術・ダンス」競技。トランポリンの美しい跳躍や新体操のしなやかな、エアロビクスやダンススポーツなどの快活なリズムが大会をきれいに彩ります。

収録競技・種目

- ・ダンススポーツ
- ・スポーツアカロ体操
- ・エアロビクス
- ・トランポリン
- ・ローラスケート
- ・タンブリング

[会員無料](#) [500Kで視聴する](#) [詳細はこちら](#)

6 標的競技編

もっとも高い集中力と確かな技術力が必須とされる競技が「標的競技」。ビリヤードの息詰まる攻防や、ボーリングやフィールドアーチェリーの緊張した空気を映像でお届けします。

収録競技・種目

- ・キヤスティング
- ・フィールドアーチェリー
- ・ビリヤード
- ・ブルスポーツ
- ・ボーリング

[会員無料](#) [500Kで視聴する](#) [詳細はこちら](#)

7 公開競技編

インドアトライアル・チーム戦では、日本代表が銅メダルを獲得。ドラゴンボートやビーチハンドボール、合気道など通常テレビでは目にすることのない貴重なスポーツも要チェック!

収録競技・種目

- ・合気道
- ・インドア・バイク
- ・トライアル
- ・アメリカンフットボール
- ・ビーチハンドボール
- ・インドアホッケー

[会員無料](#) [500Kで視聴する](#) [詳細はこちら](#)

Copyright © 2001-2005 ShowTime, Inc. All Rights Reserved

第7回ワールドゲームズ参加者

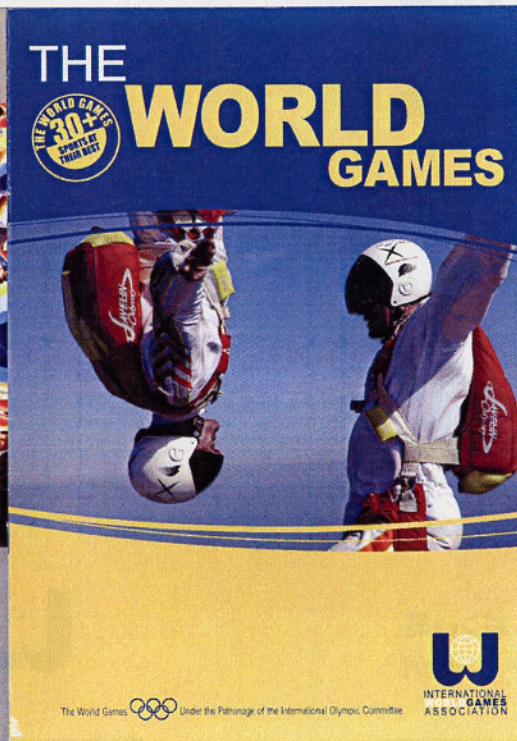
競技名	氏名	性別	年齢	所属	出身地
キャスティング	犬飼 岩魚 イカイ イオ	男	36	びわこキャスティングクラブ	大阪府
	小田切 栄 オダギリ ヲエ	男	38	中部キャスティング倶楽部	愛知県
	岡本 堅史 オカモト ケンジ	男	43	コーチ	東京都
新体操	村田 由香里 ムラタ ユカリ	女	23	東京女子体育大学	兵庫県
	山崎 浩子 ヤマザキ ヒロコ	女	45	コーチ	鹿児島県
エアビッコ	伊藤 由里子 イノウエ ユリコ	女	36	(株)JSMフーズ	愛知県
綱引	小室 欣永 コムロ コノエ	女	36	コベルコ科研	兵庫県
	山崎 はまこ ヤマザキ ハマコ	女	49	コベルコ科研	兵庫県
	長尾 幸恵 ナガオ サチエ	女	42	コベルコ科研	兵庫県
	中井 美香 ナカイ ミカ	女	38	コベルコ科研	兵庫県
	藤本 直美 フジモト ナオミ	女	36	コベルコ科研	兵庫県
	初岡 雅美 ハツオカ マサミ	女	33	コベルコ科研	兵庫県
	山野 房子 ヤマノ フサコ	女	36	コベルコ科研	兵庫県
	内山 里美 ウチヤマ サトミ	女	40	コベルコ科研	兵庫県
	小向 玲子 コムカイ レイコ	女	35	コベルコ科研	兵庫県
	箕岡 登 ミノカ ノボル	男	50	監督	兵庫県
	野々村 英造 ノノムラ エイゾウ	男	57	コーチ	兵庫県
水上スキー	栗沢 祐行 りさわ ひろゆき	男	30	静岡県水上スキー連盟	静岡県
	本間 徹 ホノマ トオル	男	63	コーチ	東京都
ボウリング	伊藤 丈 イノウエ マサル	男	28	(株)東北装美	福島県
	片井 文乃 カタイ アキノ	女	27	静活(株)	静岡県
	小杉 雅彦 コスギ マサヒコ	男	48	コーチ	東京都
カヌーポロ	蒲谷 直美 カハヤ ナオミ	女	25	神奈川カヌークラブ	神奈川県
	植田 礼 ウエダ レイ	女	23	神奈川カヌークラブ	神奈川県
	糸田 容子 イタダ ヨウコ	女	22	神奈川カヌークラブ	神奈川県
	渡辺 恵 ワタベ エミ	女	29	保田カヌークラブ	愛知県

競技名	氏名	性別	年齢	所属	出身地
カヌーポロ	北川 律子	女	29	保田カヌークラブ	愛知県
	森 麻弥	女	21	保田カヌークラブ	愛知県
	糸田 由起	女	28	神奈川カヌークラブ	神奈川県
	渡辺 明	男	52	監督	神奈川県
	安ヶ平智央	男		コーチ	神奈川県
ダンススポーツ	石原 正幸	男	20	日本ダンススポーツ連盟	東京都
	斉藤 愛	女	19	日本ダンススポーツ連盟	東京都
	瀬古 薫希	男	20	日本ダンススポーツ連盟	三重県
	瀬古 知愛	女	22	日本ダンススポーツ連盟	三重県
空手道	永木 伸児	男	22	日本空手松涛会	岡山県
	荒賀 知子	女	20	京都産業大学	京都府
	高橋 優子	女	24	日本空手協会	群馬県
	若井 敦子	女	33	市川工務店	岐阜県
	香川 政夫	男	49	監督	大阪府
	山村 弘一	男	57	コーチ	北海道
トランポリン	人見 雅樹	男	22	金沢学院北國クラブ	東京都
	上山 容弘	男	21	大阪体育大学	大阪府
	半本 ひろみ	女	23	金沢学院北國クラブ	石川県
	世戸 瑤子	女	19	金沢学院北國クラブ	石川県
	古 章子	女	31	コーチ	石川県
フライングディスク	三浦 俊信	男	30	Nomadic Tribe	神奈川県
	岡田 真人	男	27	Nomadic Tribe	千葉県
	山本 泰史	男	27	Nomadic Tribe	東京都
	笹川 慶	男	25	文化シャッター	愛知県
	仙田 聡	男	25	文化シャッター	神奈川県
	松野 政弘	男	21	大阪体育大学	大阪府
	峰岸 えみ里	女	27	MUD	東京都

競技名	氏名	性別	年齢	所属	出身地
フライングディスク	佐藤 祐子 サウ ユコ	女	26	スパイラル	東京都
	藤岡 あゆみ フジカ アユミ	女	26	HUCK	千葉県
	平井 絵理 ヒライ エリ	女	23	ウノ	愛知県
	松井 美奈 マツイ ミナ	女	23	ウノ	愛知県
ビリヤード	新井 達雄 アライ タツオ	男	46	(有)アルテ	東京都
	星 勝志 ホシ カツシ	男	35	(株)三木	愛知県
	浜西 由希子 ハマニシ ユキコ	女	33	ハマダ(株)	大阪府
パワーリフティング	伊差川 浩之 イサカワ ヒロユキ	男	50	パワースポーツ	沖縄県
	福島 友佳子 フクシマ ユカコ	女	33	パワーハウス	兵庫県
	池谷 あや子 イケヤ アヤコ	女	35	浜松東部トレーニングセンター	静岡県
	福島 和文 フクシマ カズミ	男	38	コーチ	
ローラースケート	篠塚 奈知 シノヅカ ナチ	女	18	POWERSLIDE JAPAN	千葉県
	篠塚 雅之 シノヅカ マサユキ	男	53	コーチ	千葉県
フィンスイミング	坂本 弥生 サカモト ヤヨイ	女	29	WBF	神奈川県
	酒井 秀彰 サカイ ヒデアキ	男	24	フィジカルアキウト	愛知県
	近藤 均 こんどう ひとし	男	51	コーチ	神奈川県
アーチェリー	二戸 慶和 ニト ヨシカズ	男	22	明星大学	東京都
	井尻 律子 イヅリ リツコ	女	53	フクトクダイヤ	岡山県
	茂木 友博 モギ トモヒロ	男	53	コーチ	埼玉県
相撲	花田 裕也 ハナダ ユヤ	男	21	日本大学	青森県
	日景 清悦 ヒカゲ セイエツ	男	25	秋田県立比内養護学校鷹巣	秋田県
	下田 圭将 シタダ ケイショウ	男	21	日本大学	長崎県
	吉田 勝雄 ヨシダ カツオ	男	21	日本大学	熊本県
	市原 孝行 イチハラ タカユキ	男	20	日本大学	愛知県
	小濱 由紀 コハマ ユキ	女	20	日本大学	青森県
	石谷 里美 イシヤ リミ	女	24	日本大学職員	静岡県
	築比地 里絵 築比地 リエ	女	27	間口運輸(株)	栃木県
	岩井 珠実 イワイ タマミ	女	22	(株)アクトス	岐阜県

競技名	氏名	性別	年齢	所属	出身地
パラシューティング	岡崎 葉子 かつき ちか	女	33	フリー	東京都
	AXEL ZOHMAN	男	37	フリー	オーストリア
ボディビル	相川 浩一 ちかわ こういち	男	34	東京ボディビル連盟	千葉県
	西本 朱希 にしもと あき	女	38	東京ボディビル連盟	東京都
合気道	植芝 守央 うえしば まもつ	男	54	合気会 道主	東京都
	藤田 昌武 ふじた まさたけ	男	68	全日本合気道連盟	東京都
	荒井 俊幸 あらい としゆき	男	69	全日本合気道連盟	東京都
	窪田 育弘 くぼた いくひろ	男	61	全日本合気道連盟	奈良県
	金澤 威 かねさわ たい	男	40	合気会本部道場	青森県
	小谷 佑一 こたに ゆういち	男	25	合気会本部道場	鳥取県
	須藤 幸夫 すどう ゆきお	男	50	全日本合気道連盟	群馬県
	吉村 浩至 よしみら ひろし	男	29	全日本合気道連盟	奈良県
日和 リカ ひろり つか	女	34	全日本合気道連盟	奈良県	
モーターサイクルスポーツ	藤波 貴久 ふじな たかひさ	男	24	Repsol Montesa HRC	三重県
	黒山 健一 くろやま けんいち	男	26	Beta Kenny	兵庫県
	野崎 史高 のざき ふみたか	男	21	Scorpa Racing	埼玉県
	黒山 二郎 くろやま じろう	男	20	メカニック	兵庫県
	CARLES B. ROMANS	男	26	メカニック	スペイン
	JOSE G. BANERAS	男	37	メカニック	スペイン
	西 英樹 にし ひでき	男	52	監督	岡山県
ビーチハンドボール	堀 美和子 ほり みわこ	女	35	(株)エス・シー・エス	大分県
	井口 京子 いぐち きょうこ	女	35	府中市立第十中学校	東京都
	伊藤 智絵美 いとう ちえみ	女	28	横浜市立戸塚高等学校	岐阜県
	園部 晶子 園部 あきこ	女	24	佐原市立北佐原小学校	茨城県
	鶴飼 淳子 鶴飼 じゆんこ	女	23	松本南幼稚園	長野県
	坂口 ゆかり さかぐち ゆかり	女	22		千葉県
	山本 佳世 やまもと けいせ	女	21	順天堂大学	東京都

競技名	氏名	性別	年齢	所属	出身地
ビーチハンドボール	梅田 智子 ウメダ トモコ	女	19	玉川大学	東京都
	川端 佐和 かわはた さわ	女	19	大東文化大学	東京都
	鈴木 麻里子 すずき まりこ	女	19	東邦大学	千葉県
	藤平 晃子 ふじひら あきこ	女	32		神奈川県
	原田 悟 はらだ さトル	男	32	監督	東京都
	大井 治 おおい じ	男	42	コーチ	大阪府
7人制ラグビー	端迫 雅俊 はしほ まさとし	男	25	九州電力	
	山本 英児 やまもと えいじ	男	25	九州電力	
	藤原 丈嗣 ふじはら たいすけ	男	21	日本大学	
	奥藪 裕基 おくさく ゆき	男	24	大阪府警	
	平 浩二 ひら こうじ	男	22	サントリーサンゴリアス	
	ネイサン・アシュレイ	男	31	日本 IBMビッグブルー	
	竹山 森 たけやま もり	男	22	九州電力	
	小吹 祐介 こぶき ゆうすけ	男	24	リコーブラックラムズ	
	上田 泰平 うえだ たいへい	男	23	ホンダヒート	
	金澤 良 かねざわ りょう	男	23	リコーブラックラムズ	
	鈴木 貴士 すずき たかし	男	24	セコムラガッツ	
	佐野 順 さの じゅん	男		コーチ	
	高井 明彦 たかい ありひこ	男		コーチ	
太田 正則 おおた せいすけ	男		コーチ		



特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会〔JWGA〕

1980年、国内のワールドゲームズ関係競技種目団体が中心となり日本ワールドゲームズ協議会を設立。その後、1991年日本ワールドゲームズ協会(JWGA)に改組し、今日に至っています。JWGAは、設立当初より、国際ワールドゲームズ協会(IWGA)の事業に参画し、第6回大会(2001年8月秋田県で開催)の日本誘致を成功させました。

2001年6月には、NPO法人(特定非営利活動法人)の認証を受け、ワールドゲームズ運動の推進、国内大会の開催等を事業として活動しており、2006年3月現在、48のスポーツ団体(46競技団体)が加盟しています。

【目的】

ワールドゲームズの理念に則り、多種多様なスポーツを国民に普及紹介し、スポーツ人口の増大を図り、選手の育成とそのレベルアップを図るとともに、スポーツを通じて我国民はもとより、人類の健康増進と世界平和に寄与することを目的としています。

【事業】

1. 国際ワールドゲームズ協会及び国際スポーツ団体総連合の事業への参画
2. ワールドゲームズに関する普及・啓発
3. ワールドゲームズ国内大会の開催
4. スポーツの国際交流
5. 国際的なスポーツ問題の調査研究



【役員】

会長	小野 清子	笹川スポーツ財団 会長
副会長	玉利 齊	日本ボディビル連盟 会長
執行理事 (国際担当)	師岡 文男	上智大学教授 日本フライングディスク協会副会長
執行理事 (総務担当)	渡邊 一利	笹川スポーツ財団 常務理事
執行理事	赤木 恭平	全日本ボウリング協会 会長
執行理事	藤本 和延	笹川スポーツ財団 常務理事
理事	青木純一郎	順天堂大学 副学長
〃	清宮 邦雄	日本ローラースポーツ連盟 専務理事
〃	西尾 学	日本ビリヤード協会 専務理事
〃	蓮見 圭一	全日本空手道連盟 副会長
〃	村岡 久平	日本武術太極拳連盟 専務理事
〃	吉澤 俊治	日本水中スポーツ連盟 専務理事・事務局長
〃	吉田 進	日本ディスエイブルパワーリフティング連盟 理事長
監事	藤田 昌武	合気会 顧問

詳しくは JWGA のホームページをご覧ください。

http://www.ssf.or.jp/jwga/ E-mail:jwga@ssf.or.jp



特定非営利活動法人
日本ワールドゲームズ協会

105-0001
東京都港区虎ノ門1丁目15番16号
海洋船舶ビル 笹川スポーツ財団内
TEL03-3580-5854 FAX03-3580-5968
E-mail : jwga@ssf.or.jp <http://www.ssf.or.jp/jwga>